

福島県 会津美里町商工会

仮設住宅に仮設店舗、
商工会が運営



昨年12月28日、町内に隔離する榎葉町民の仮設住宅の敷地内に、仮設店舗「みんなの店「ぎずな」」がオープンした。建設は中小企業基盤整備機構で、商工会（宗像利浩会長）が運営に当たっている。

開所式では宗像会長が「避難している方々の生活支援のために、また町民の交流の場として、みんなの店」を役立ててほしい」とあいさつした。渡部英敏会津美里町長と鈴木伸一榎葉町副町長が祝辞を述べ、梶原活司宮里仮

設住宅自治会長とともにテープカットを行った。

買い物に訪れた菊地八重子さんは「雪道に不慣れなこともあって、今までの車で買い物に出かけていました。地元野菜やお菓子、パンなどの食品や日用品が近くで買えるようになり、本当によかったです」と喜んでいました。

店舗の営業時間は平日の午前九時から午後五時半まで。定休日は日曜・祝日で、住民の要望に応じて町内の小売店への取り次ぎも行っている。



徳島県 県南5商工会

郷土の自慢料理、パンフレットで紹介



県南5市町（阿南市、那賀町、美波町、牟岐町、海陽町）の商工会などが構成する「四国の右下右上がり協議会」では、地域独特の料理を紹介したパンフレット「郷土料理 其の一」を制作・配布した。

A3判、カラー、四つ折りのパンフレットでは、新鮮な生シラスに、もみ海苔、シヨウガ、ネギ、大葉などを散らした「釜揚げしらす丼」（阿南市）、煮魚にそうめんや錦糸卵、甘辛く煮たシイタケなどを盛り付ける色鮮やかな「島そうめん」（牟岐町）、炊いたもち米を半分ほどつぶしたおはぎ「ほんごろうし」（那賀町）など6種の料理を紹介している。

郷土の誇る懐かしい「おふくろの味」を家庭でも気軽に料理できるよう、レシピ集として材料や調理の仕方を写真入りで掲載した。制作費は35万円、3万部作製し、エリア内の道の駅や観光案内所で配布している。

富山県 上市町商工会女性部

特産品化第1号「上市でしようが！」完成



商工会女性部（細川和子部長）が、町産シヨウガのシロップ「上市でしようが！」を完成し、2月から商工会員の店や町内の「みやげ処 味蔵」などで販売を開始した。

町内では大岩や柿沢地区など3万㎡で約30戸の農家がシヨウガを生産しており、町は平成23年度に出荷拡大のための助成制度を整備し、シヨウガを使った特産品開発を支援してきた。その第一弾が女性部の「上市でしようが！」。シヨウガの絞汁のさわやかな辛みを生かし、はちみつのみろやかな甘みにレモンと砂糖を加えた。

細川部長は「上市の水と空気、豊かな土で育ったシヨウガを凝縮した自信作です。調味料としての活用はもちろん、冷やしてハイボールにしたり、お湯割りにするのもオススメです。ヘルシーなので子供からお年寄りまで気軽に飲んでほしい」と話している。1本720円、1600円。

インフルエンザに負けるな、今年もお茶をプレゼント

商工会青年部西海支部（久保田雅洋支部長）は風邪やインフルエンザから子どもたちを守ろうと、西海町内の幼稚園・保育園計7施設にうがい用茶葉を計35キロ贈った。

はすの実保育園（服部忍園長）に茶葉を届けた久保田支部長は

「風邪に負けないよう元気に過ごしてください」と園児代表に茶葉を手渡した。久保田支部長は「茶に含まれるカテキンには抗菌効果があるといわれていますので、2008年度から茶葉のプレゼントを続けています」と話している。



災害備蓄保存用パンを販売

商工会女性部（濱田道子部長）は、県内商工会女性部では初めて缶入り「災害備蓄保存用パン」を販売している。商工会本所と海山支所などで2月1日～10日に予約の受け付けを行い、3月1日から商品の引き渡しを開始

した。缶のラベルには、町内の幼稚園児から募集した絵柄を印刷した。絵のテーマは「うれしかったこと」「楽しかったこと」で、1缶に4点の絵が印刷されている。1缶1008程度で、チョコチップ味とコーヒーナッツ味の2種類がある。2個入り380円、保存期間は約5年。

濱田部長は、「東日本大震災や紀伊半島大水害で、非常食備蓄の重要性を痛感し、防災意識の向上をねらって企画しました。収益金は全額寄付します。柔らかいパンなので、常備食やアウトドアにも適しています。今回販売個数は5000個ですが、次年度以降も継続販売する予定です」と話している。



は「うれ

〈訂正〉本誌3月号59頁「情報スクラップ」の岐阜県の情報について、「下呂市商工会」と記載していましたが、「萩原町商工会」の誤りでした。お詫びして訂正いたします。